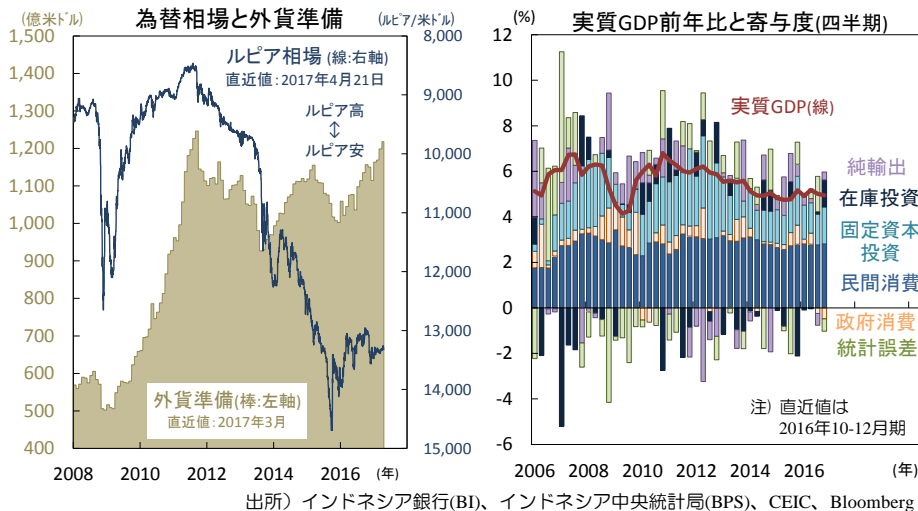


インドネシア:ジャカルタ州知事選挙での現職知事敗退はルピア相場の上値を重くするのか

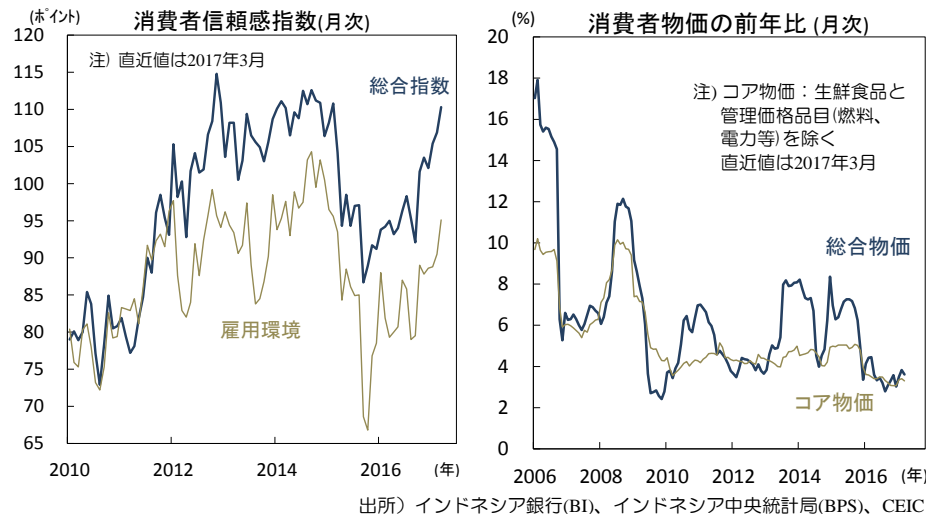
【図1】内需にけん引された底堅い景気拡大が継続(右)



先週19日、同日行われたインドネシアのジャカルタ州知事選挙の決選投票の出口調査結果を複数の民間調査機関が公表。アニス・バスウェダン前教育相が、6割弱の得票率で現職のバスキ・チャハヤ・プルナマ知事(通称「アホック」)を破り当選を確実にしました。翌20日に市場が再開すると主要株価指数(ジャカルタ総合指数)は前日比0.2%下落し、通貨ルピアも対米ドルで0.2%下落(図1左)。金融市場は選挙結果を嫌気しました。

今回の選挙は、2019年の大統領選挙の前哨戦としても注目されていました。ジョコ現大統領は2012年のジャカルタ州知事選挙で当時の現職知事を破ったことで知名度を高め、2014年の選挙で勝利し大統領に就任。以後、同知事職は大統領候補への登竜門と見なされていました。ジョコ氏が知事であった際に副知事であったアホック氏は、ジョコ氏の大統領就任に伴って知事に昇格。知事選挙は今回が初でした。ジョコ氏の属する闘争民主党(PDI-P)がアホック氏を擁立し、野党グリンドラ党はアニス氏を擁立。グリンドラ党のプラボウォ党首は2014年の大統領選挙でジョコ氏に敗退しています。

【図2】改善する消費者信頼感(左)、落ち着いた消費者物価(右)



アホック氏は、高い行政手腕と歯に衣せぬ発言で知られます。同氏の対立陣営は、華人系でキリスト教徒の同氏への投票はイスラム教の聖典に反すると主張。これに反論したアホック氏の9月末の発言が同聖典の侮辱に当たるとして、同氏は宗教冒とく罪に問われました。10月半ば以降、同氏の退任や拘留や投獄を求めるデモがジャカルタで散発的に発生。11月初にはデモ隊の一部が暴徒化し死傷者が出るに至りました。今回、アホック氏が当選していた場合には再びこうしたデモが発生していたとみられ、同氏の敗退によって、政治社会状況の不安定化はひとまず避けられたと思われれます。

一方、今回の結果が同国の政治状況を微妙に変化させかねないのも事実です。2019年の大統領選挙での勝利を目指すプラボウォ氏は、ジョコ政権への対決姿勢を強めるでしょう。連立与党に加わったゴルカル党は日和見主義な面があり、野党が攻勢を強めれば大統領と距離を置き始めるかも知れません。こうした状況は2019年が近づくとともに生じたであろうものの、今回の選挙がその時期を早める可能性も指摘されます。

● 知事交代でジャカルタのインフラ投資の減速の可能性も

海外投資家は、これまで華人系キリスト教徒に知事職を委ねてきたジャカルタの有権者の寛容さを高く評価。宗教色の強い選挙戦術を用いた陣営が同氏を破ったことによって、こうした評価も影響を受けるでしょう。もっとも、ジョコ政権で教育相を務めたアニス氏は、インフラ整備、質の高い統治、貧困の削減、教育の充実などを掲げており、知事の交代によって政策運営が大きく変化する可能性は低いとみられます。

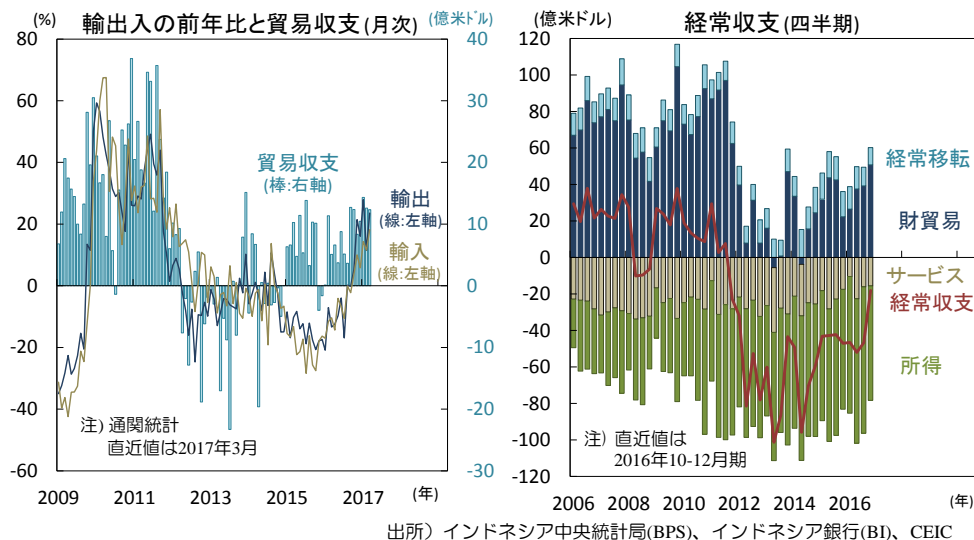
一方、同国の政治家としては異例なほどの果敢な決断力と高い実行力を備えたアホック氏に対して、アニス氏は伝統的な政治家として知られています。慎重で保守的な新知事の下でジャカルタ特別州の予算で行われているインフラ投資の進展が減速する可能性も無視できません。また、ジョコ氏が同知事に就任した直後に行ったように、前任者の下で認可された投資計画を監査し不正の可能性を追求した場合、インフラ投資の進展は遅延を余儀なくされるでしょう。同国全土のインフラ投資拡充を目指すジョコ政権にとって、多額の予算を持つジャカルタ州知事の意向は無視できません。今年10月に就任する新知事は同氏を擁立したブラボウォ氏の影響をどの程度受けるのか、ジョコ大統領は新知事と良好な協力関係を築けるのかなどに注目が集まります。

● 選挙直後に軟調となったルピア相場も今後は底堅く推移か

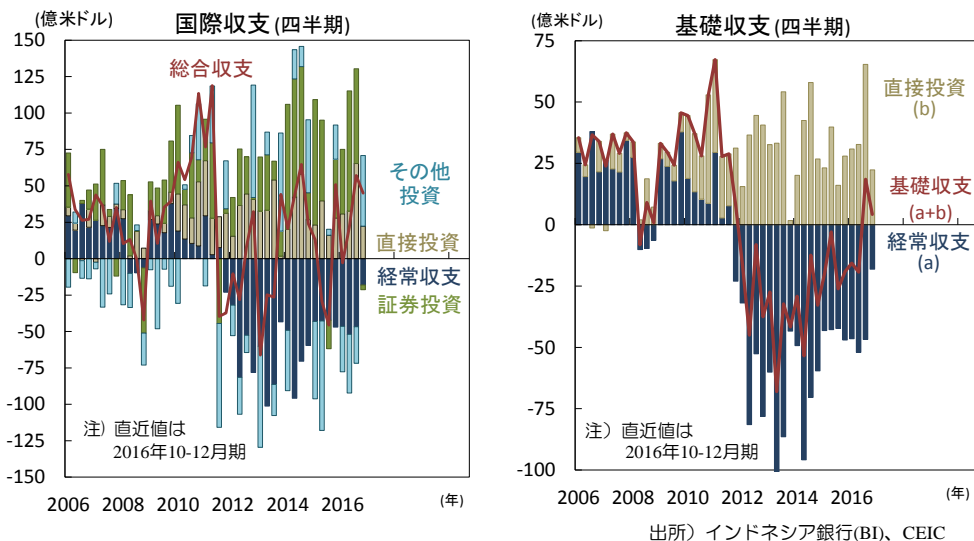
通貨ルピアは今回の選挙結果を受けて弱含んだものの、影響は短期的とみられます。選挙は目立った混乱もなく整然と行われました。出口調査は係争の余地の少ない十分な得票差を示唆し、宗教冒とく罪の容疑者が知事として続投する事態も回避。金融市場は今年最大の政治イベントを無難にこなしました。今回の結果がジョコ政権の政策運営に直ちに大きな影響を与える可能性も低いでしょう。かつての側近の敗北に伴って大統領が大衆迎合的な政策に転じる可能性は低く、海外投資家が厚い信認を寄せるスリ・ムルヤニ財務相(前世界銀行専務理事)は、引き続き財政の健全化に向けた歳出の合理化を進めるとみられます。格付大手S&Pは3月に同国を訪問。5月にも同国の外貨建長期格付(現在: BB+)が投資適格級のBBB-に格上げされる可能性が意識されます。

底堅い景気拡大(図1右)、落ち着いた物価(図2右)、世界景気の回復や一次産品価格の上昇とともに伸びる輸出と拡大する貿易黒字(図3左)、2013-14年当時と比べて縮小した経常赤字(図3右)と黒字に転じた基礎収支(図4)、増強された外貨準備(図1左)、高水準の実質金利などルピアの支援要因は健在です。格付大手による投資適格級への格上げの期待が高まる中で、ルピア相場は当面底堅く推移すると予想されます。(入村)

【図3】好調に伸びる輸出(左)、経常赤字は近年縮小傾向(右)



【図4】経常赤字の縮小と直接投資流入の加速で基礎収支が黒字に



・本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況であり、また、見通しないし分析は作成時点での見解を示したものです。したがって、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等は考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会